

時津町は「家読」を推進しています

# たまには テレビをけして

ようじむ 幼児向け 2025年 ねん 夏号 なつごう



とぎつちょうりつとぎつとしょかん  
発行：時津町立時津図書館

## うちどく 家読とは

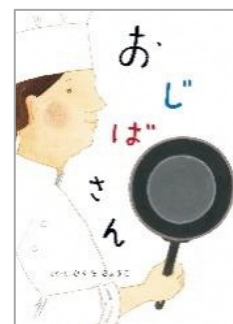
家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



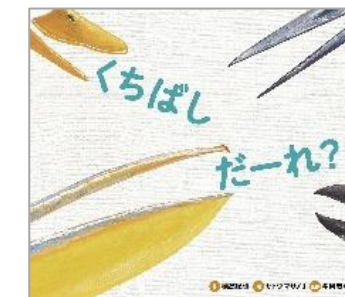
Illustrator ATSUKO



### 「おじばさん」

ひぐち きょうこ/さく・え (さくら社)

わたしのパパはおじさんなのにおばさんみたいなのところがある。だから「おじばさん」とこっそりよんでいる。「おじばさん」のお仕事はコックさん。土曜日と日曜日もお仕事だから、わたしはお休みの日はひとりです。けれども、夏休みの火曜日、ふたりでプール行くことになり、「おじばさん」はおおはしゃぎ。いっぱい遊んで帰ると…。



### 「くちばし だーれ？」

穂高 順也/作 サトウ マサノリ/絵 今泉 忠明/監修 (金の星社)

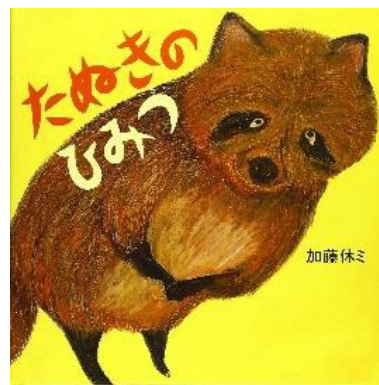
だれのくちばしかわかるかな？小さなくちばしや、大きなくちばし。いろんな色やいろんな形のくちばしが出てきますよ。よくみて、くちばしだけで、何の鳥かあててみましょう。楽しみながら、鳥のことについて少しくわしくなれる絵本です。



### 「5ひきのくまさん」

キャサリン・レイナー/さく  
みずの ゆきこ/やく (文溪堂)

きもちの優しいくろくまさんが散歩をしていると、もじゃもじゃのくま、パンダ、おおきなくまと出会います。しばらくいくと、しろくまに会いました。しろくまは木の上からおりられなくなっています。そこで、みんなで力を合わせてしろくまを助けることにしました。—「だれでもひとりでは大変なこともあるからね。」

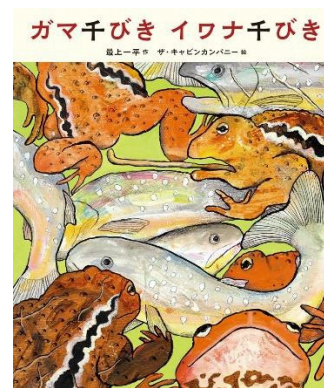


### 「たぬきのひみつ」

加藤 休ミ/作 (文溪堂)

「だれにもいっちゃいけないよ」たぬきや他のどうぶつたちは、びっくりするようなひみつをもっていたのです。どうぶつたちは次々とひみつをいっていきますが、たぬきは最後にもう一つひみつを教えてください。

おうちの人と、どうぶつたちのひみつを予想しながらよんでみてくださいね♪



### 「ガマ千びき イワナ千びき」

最上 一平 /作 ザ・キャビンカンパニー/絵 (文溪堂)

滝つぼにすむガマは、ある日、滝をのぼろうとするイワナにあいました。はげしい水のいきおいに、イワナはなんどもしっばいします。それでもあきらめないイワナ。ガマがそのわけをたずねると…。

しらない世界をめざし、ぼうけんのたびに出たくなる絵本です



### 「わたしのあくびみなかった？」

ピョン ユジョン/作 三辺 律子/訳 (絵本塾出版)

ある日のよる、いつものようにベッドに入ったミリーは、なぜか眠りにつけません。考えてみるとその日は一度もあくびをしていなかったのです。そこでミリーはあくびをさがすことにします。「わたしのあくびみなかった？」と聞いてまわるミリーですが、無事にあくびを見つけることができるのでしょうか？